



供御一紙文

ウツルル中

出雲の十六島の海苔

あり松平不昧公は此を

羽織に仕立てて吉原の

遊ば羽織を列衣にて

あがりーといふ逸事

有之六小奇を好む

似し小ど國産を天

下に款合せしつりた

るべし十六島の海苔は

海苔の自然のまゝに

仕立てる也 出雲へ海苔

海苔をもちゆきこし生は

大に夫のせしこと有之

十六島の海苔を味入る

出雲人土子取りには

海苔干海苔は喜ぶ

輕薄の気が白果

つくたるべし海苔



了く下るべし清草十
 海若木人造也薄
 くも若水なる厚くも
 古くも芳通の海
 其は輕く薄都全
 の如く下るが御裏
 贈のまは重厚子

凍草海苔廿傳寺
 松如都濃季人
 苔中見都真傑
 恋是是世人記



東京府下豊多摩郡
 井荻村上荻六郎三三九
 長峰但敏毅
留白
高節
高節
高節

四月十一

